

実態を踏まえた生産コスト調査 乳価交渉に活用したい

広酪は、平成二十六年乳価交渉に向けた中国生乳販売農業協同組合連合会(以下「中国生乳販連」という)の取組方針、中国五県の生産基盤状況等、同連役員らとの情報共有と意見提案を行う場として、同連との意見交換会を開催した。同連から東山基(もと)代表理事会長、鍵山信儀代表理事常務、植野光雄業務部長兼機能整備推進室室長を招いた。



(広酪役員からの意見に答える東山会長)

開会にあたり、岩竹重城組合長は「今回の意見交換会の主題は乳価交渉に焦点を寄せたものとした。積極的な意見を求めたい」と挨拶した。続いて東山会長からは「こうした場を設けて頂き感謝する。広酪役員からの忌憚の無い意見を頂戴し、今後の乳価交渉への参考としたい」と挨拶された。



(乳価交渉の取組みを説明する鍵山常務)

調査等の提出を求める広酪の取組を評価する。この実績データは根拠あるものとして、今後の乳価交渉で有効に活用したい」とし、鍵山常務からは「乳業社に根負けすることなく、粘り強く交渉にあたりたい」と理解を求めた。

続いて、植野部長から最近の酪農情勢や生乳需要状況等、鍵山常務から平成二十六年度の生乳取引交渉にかかる方針説明を受けて意見交換に入った。広酪役員からは、「中山間地域等の立地条件を踏まえた生産費調査を根拠として乳価交渉にあられたい」、「交渉力のある指定団体機能の強化を求め」、「生乳は皆同じ生産コスト。用途別乳価ではなく、一律の乳価設定を求めたい」等の意見があった。東山会長は「全ての生乳出荷組合員から税務申告データを基にした生産費



(中国生乳販連役員らを囲んでの意見交換会)

(中国生乳販連が乳業社に提示した要請書)

平成26年度生乳取引に係る要請

謹啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より当連合会管内の酪農振興につきましては格別のご理解・ご協力を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

引き続き、来る平成26年度におきましても友好と信義に基づく生乳のお取引をお願い申し上げます。

平成26年度の酪農乳業界は、消費増税後の牛乳の消費動向に関心が集まっておりますが、万一、減少影響が生じた場合には生産者団体として共に一層の消費・普及対策に取り組む所存であります。

さて、今、酪農現場には高い廃業率と乳用牛頭数の減少が同時進行しており、この状況で推移するならば平成26年度の生乳生産は前年度割れが必至となります。

他方、生乳需要面においては既存需要に加え国際的な乳製品の需給ひっ迫と相場の高騰による国産品への需要回帰も予測されることから、国内の牛乳乳製品需要への充足に当たっては供給不足を背景に極めて厳しい需給運営を余儀なくされます。

よって、平成26年度における酪農乳業界が取り組むべき喫緊の課題は弱体基調下にある生乳生産基盤の復元であり、このことは官民を挙げた共通認識となっております。

近年の酪農経営環境は平成20年度の乳価値上げにより未曾有の窮状からの脱却が緒についたさ中であって、平成24年度第4四半期から本格化したアベノミクスによる円安が乾牧草を始めとする輸入物資の高騰をもたらし再び窮状に陥ることとなりました。

このため、生産者団体は窮状の打開を今年度(平成25年度)の乳価値上げに求め、当連合会では隣酵乳等を含む飲用等向け用途に対し7円/kgの値上げ要求で交渉に臨みましたが、

その結果、平成25年10月から飲用牛乳向け用途に5円/kgの値上げとなりましたが、プール乳価では3円強の上昇に留まり窮状の打開には届かない水準にあります。

加えて、折角の乳価値上げも、その後の円安急伸が経営改善効果の減殺を招くこととなり、生産意欲の停滞から廃業者の加速に歯止めがかからない実態にあります。

つきましては、平成26年度の乳価交渉に当たっては、生乳需給事情を踏まえ生産意欲の復興を通じた生乳生産基盤の復元が可能な乳価の実現について特段のご高配をお願い申し上げます。具体的な要求事項につきましては後日改めてご提示させていただきます。

なお、平成26年度におきましても交渉の促進を期するため流通・小売業界及び消費者に対し酪農現場の実情を訴求する酪農理解醸成活動に組織を挙げて取り組む所存であります。

敬 具

乳業者各位

平成26年 1月31日
 中国生乳販売農業協同組合連合会
 代表理事会長 東 山

